

## 令和7年度 第4回豊田市商業振興委員会

【日 時】 令和8年2月4日（水）午後2時から

【場 所】 豊田市役所南庁舎 南51会議室

【出席者】 <委員>

脇田 弘久〔愛知学院大学商学部 教授〕  
元岡 征志〔シー・プロジェクト 代表中小企業診断士／社会福祉士〕  
井口 貴視〔豊田信用金庫 中小企業診断士〕  
松本 義宏〔名古屋学院大学経営学部 講師〕  
奥泉 友紀〔豊田まちづくり株式会社 取締役執行役員〕  
新田 都子〔高岡地域消費者グループ 代表〕  
山内由美子〔とよた下町おかみさん会 令和4年度会長〕  
鈴木 千加〔足助商工会 女性部 部長〕  
杉山 裕貴〔市民公募〕

(計9名)

<事務局>

脇迫 博文〔豊田市産業部部長〕  
川合 晃司〔豊田市産業部産業振興課課長〕  
吉野 奈美〔豊田市産業部産業振興課副課長〕  
谷口 元〔豊田市産業部産業振興課担当長〕  
棚野 翔〔豊田市産業部産業振興課主査〕  
下川原 沙紀〔豊田市産業部産業振興課主査〕  
江口 愛可吏〔豊田市産業部産業振興課主査〕  
中野 達貴〔豊田市産業部商業観光課主査〕  
千代田 ミワ〔豊田市産業部産業振興課主事〕

【傍聴者】 1名

【次第】

- 1 開会
- 2 産業部 部長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 本日の審議スケジュール等について
- 5 議事

- (1) 豊田まちづくり(株) 第Ⅷ期商業活性化推進3か年計画(案)について
  - (2) (一社) TCCM 第Ⅳ期商業活性化推進3か年計画(案)について
  - (3) 商業・サービス機能誘致推進に関する基本方針(案)について
  - (4) 西町商店街協同組合商店街等活性化計画(案)について
  - (5) 稲武商工会商店街等活性化計画(案)について
- 6 その他 令和8年度 商業振興委員会開催予定について

#### 【問答要旨】

##### 議事

- (1) 豊田まちづくり(株) 第Ⅷ期商業活性化推進3か年計画(案)について

##### 委員長

議題(1)について、委員の皆様からご質問をいただきたい。

##### 委員

A Iの活用については成果が期待される一方で、我々の分析の領域を超えた結果を示した場合、妥当性及び客観性をどのように判断するかが課題である。その課題について検討しているか。

A Iの活用により、分析プロセスが大幅に効率化されることが見込まれるが、効率化によって生まれる余力を、今後どの業務に注力していくかを伺いたい。

##### 豊田まちづくり(株)

A Iデータは、システムを構築しているベンダーと議論をしながら分析していく。また、他市町村のデータと比較しつつ分析を行うことで、一定の妥当性を確保できると考えている。なお、効率化によって生まれた余力は、次の事業に発展させていくための労力へつなげていく。

##### 委員

大型店のショッピングガイドとは何か。

##### 豊田まちづくり(株)

5つの商業施設の情報が載っているポケットサイズのショッピングガイドのことで、春と秋に更新し、紙の冊子として発行している。紙かデジタルのどちらで情報発信をしていくかは、A Iデータからターゲット分析を行い、決めていく。

委員

どこで配布されていたか。

豊田まちづくり(株)

大型店のインフォメーションカウンターや周辺駐車場で配布している。

委員

分かりやすい場所で配布してほしい。

委員

今年の4月にペDESTリアンデッキがオープンするが、それに伴ってイベントを企画しているか。

事務局

豊田市駅西口のバス停の集約に合わせて、行政と施設の連携事業として公共空間及びバス停を活用したイベントを予定している。内容については、今後公表する。

これを機に、歩行者通行量、集客、来街者の増加を狙いたい。

委員

ペDESTリアンデッキのオープンが華やかだと後々人が来ると思う。

委員長

計画に対する認定の条件等、ご意見を伺う。

委員

A I のデータ分析は、複雑で高度な結果が得られる一方で、実際の施策に落とし込む段階では、当初想定していなかった新たな課題が生じる可能性がある。

A I の分析結果を活用しきれない部分があると想定されるため、得られた結果をどこまで施策に反映できるかを見極めながら進めていく必要がある。その経験を次期計画に活かせるよう進めてほしい。

委員

とよた未来を育むラボ事業は、過年度から継続して実施するため、同じ内容の繰り返しとならないよう工夫し、限られた予算を有効に活用してほしい。

**委員**

とよた未来を育むラボ事業と大型店連携・共同事業について、令和8年度から令和10年度まで同じ事業内容であるが、単年度で成果が出ないものも継続して行うのか。

**豊田まちづくり(株)**

3か年同じ内容で記載しているが、単年度で成果が上がれば翌年度も継続して行う。成果が出なければ、A Iデータを活用して計画を見直し、商業振興委員会に諮ったうえで変更計画を行う。状況に応じて柔軟に変更することを前提として取り組んでいく。

(2) (一社) TCCM 第IV期商業活性化推進3か年計画(案)について

**委員長**

議事(2)について、委員の皆様からご質問をいただきたい。

**委員**

空き物件を活用して新たにチャレンジをし、店舗を展開したものの、その後再び空き物件に戻ってしまうケースがある。このような状況で、出店した事業者が地域に定着してもらえるような取り組みを進めていただきたい。

**(一社) TCCM**

本事業は、出店者が地域に定着できるようにすることを意識して構成している。定着する理由としては、家賃の安さやチャレンジしやすい環境、仲間の存在や顧客の存在があげられる。人と人との繋がりが定着するための大きな要因になっていると実感している。

定着したうえで、2店舗、3店舗と出店して事業を発展していただけるような姿を理想として掲げている。

**委員**

K P Iの先にあるアウトカムを目指していると理解しているが、想定される具体的な成果を伺う。

**(一社) TCCM**

プロモーションなどの情報発信を通じて、最終的に平日・休日の歩行者通行量の数値目標の達成につなげていく。

また、エリアの価値向上を図るため、ステークホルダーに対する目標や経営指標を整理し、取りまとめていくことが最終的なアウトカムと考えている。

**委員**

9月に供用開始予定の西口ペDESTリアンデッキ広場について、8月の名鉄豊田市駅商業施設の開業に合わせることはできないか。イベントは同時期に実施したほうが、相乗効果が高いため、前倒しを検討してほしい。

**事務局**

9月のアジア大会までの整備完了に向け、最短のスケジュールでの完成を目指している状況である。

**委員**

プロモーション事業の「まちパワーフェスタ」と「連携回遊性向上事業」の内容を伺う。

**(一社) TCCM**

まちパワーフェスタは、新年度に向けて毎年3月に集客イベントを開催している。5月のWRC及び10月のアジア大会を目指し、集客が高まるような取り組みをしている。

回遊事業は、まちパワーフェスタをはじめとする各種イベントの開催時期に合わせ、商業施設を巡るスタンプラリーなどの企画や、まちなかで滞在を促すイベントを実施している。

**委員**

まちパワーフェスタの情報発信について伺う。

**(一社) TCCM**

Instagramのフォロワー数を目標にしているが、情報発信が十分とは言えない。次年度の活性化推進計画では、効果的な情報発信を大きな目標として位置づけ、改善に取り組んでいく。

**委員**

指標としてInstagramの総フォロワー数を挙げているが、事業内容にはXやTikTokも記載されており、これらのSNSを活用した情報発信の計画及び取り組みについて伺う。

**(一社) TCCM**

SNS は、LINE、X、Instagram を使っている。一番活用しているのは X である。X のフォロワー数は約 3,700 人だが、主にグランパス関係の情報を流しているため、他の情報を流しても反応が鈍い。TikTok は、利用者の趣向に合わせて内容を変えていきたい。

ポスター等の紙媒体も引き続き活用していく。

**委員長**

計画の妥当性等、ご意見をいただきたい

**委員**

人材育成事業のペルソナとしては、中高年層を想定されており、大企業のシニア人材も対象となり得る。副業やプロボノなど、多様な関わり方を促すことで地域活性化につながると考えている。副業等で活躍をしている方のロールモデルの提示や啓発セミナー、交流、成果発表の 3 か年計画が順調に進み、地域で活躍する人材が増え、活性化につながると考えている。

KPI としての情報発信強化に加え、最終的にはエリア価値向上やステークホルダーの関与促進といったアウトカムにつながるよう、具体的な計画検討を期待している。

**委員**

現在の Instagram フォロワー数は 236 人と伸び悩んでいるため、一度フォロワーを増やすための施策を検討してはどうか。次回のまちパワーフェスタのチラシを作成し小中学校へ配布するとともに、先着 1,000 名にクオカードをプレゼントする企画などを盛り込めば、来場者増加とフォロワー獲得の双方に効果があると思う。

**委員**

Instagram の内容を見ると 3 月のイベントが入っていない。イベントの前日ではなく、より早い周知を行うのがよいと思う。市の LINE は活用できるのか。

**事務局**

市の公式 LINE は、活用可能である。

### (3) 商業・サービス機能誘致推進に関する基本方針（案）について

委員長

議事（3）について、委員の皆様からご質問をいただきたい。

委員

K I T A R Aは、エンターテイメント施設と言えるのか。

事務局

コロナ禍以降は、希望するテナントに入っていないというのが実態である。エンターテイメントに関連するテナントが入るように行政としては支援していきたいと考えている。

委員

商業・サービス機能の誘致すべきエンターテイメント施設は、どこに交渉したのか。

事務局

交渉したテナントに関しては、各施設で行っているため詳細については開示されていない。

委員

スポッチャを誘致してほしいという意見があった。

委員長

今後の委員会での審議の流れ等を説明していただきたい。

事務局

最短で令和8年5月の商業振興委員会で新基本方針について諮問し、必要に応じて中心市街地活性化協議会で協議を諮りたいと考えている。8月頃を目途に市が基本方針を策定していく。

### (4) 西町商店街協同組合商店街等活性化計画（案）について

委員長

議事（4）について、委員の皆様からご質問をいただきたい。

**委員**

第7期西町商店街協同組合活性化計画「商店街等の問題・課題」で、「夜の街のイメージが強いため、昼間利用のお客様への利便性が課題」とあるが、「区域内に必要な業種とその理由」では、「夜間のにぎわいの創出に対し、酒屋がない」と記載があるのは相反するのではないか。

**事務局**

夜の街のイメージを維持しつつ、一方で、昼間も来街してもらうため、防犯カメラ、AEDの維持管理を通じた安心安全なまちづくりに寄与し、お客様の利便性を向上させていきたいと考えている。

**委員**

スタンプラリー事業について、景品の予算が計上されていないが、景品は店舗の商品等を考えられているか。

**西町商店街協同組合**

景品は、商店街の集金や各店舗の協力により、割引券やお菓子などを配布した。今後の利用につなげるため、各店舗でクイズやスタンプラリーを実施し、店舗の雰囲気を知ってもらう機会を作った。

**委員**

スタンプラリー事業の期間を伺う。

**西町商店街協同組合**

スタンプラリー事業は、会館まつりに合わせて2月15日 のみになる。

**委員**

事業計画には防犯カメラやAEDの整備事業があるが、この設備投資を商店街の活性化に結び付けていく必要がある。市民の安心安全の確保については、商店街だけに負わせるのではなく市として補助金の確保を検討すべきではないか。

例えば、AEDの更新事業について、全て事業者負担とする場合、商店街全体として設置店舗を増やすなど、安心・安全を打ち出す取り組みを豊田市も含めて検討する必要があると考える。

#### 事務局

市としては、一部の交差点に防犯カメラを設置しており、商店街でも独自に設置している箇所がある。今回の指摘を踏まえ、更新時期には適切な場所への付け替えや廃止も含め検討していく。AEDについては、現在3か所のみを設置だが、行政として設備整備を進めるとともに、協力事業者を募りながら設置個所の選定を進めていきたい。

#### 委員

スタンプラリー事業について、スタンプ台の設置は費用がかかる。デジタルスタンプは最近のトレンドのため、工夫によりにぎわいの創出につながることを期待する。

#### (5) 稲武商工会商店街等活性化計画（案）について

#### 委員長

議事（5）について、委員の皆様からご質問をいただきたい。

#### 委員

稲武商工会商店街活性化計画は、商店街以外の企業は対象としていないか。

#### 稲武商工会

旧153号線の商店街が中心となるが、それ以外の地区の事業者にも関わりを持っていただけるように計画して実行していきたい。

#### 委員

人材育成事業の参加者の傾向を伺う。

#### 稲武商工会

50代の青年部員が中心である。商店街以外の地区の若手の事業者も一緒に育成していくことが重要になるため、他地区の方にも参加を促し、計画策定をしていく。

#### 委員

この地区の移住型の創業者も巻き込みながら地域の活性化につながることを期待する。

事業計画の消費動向等分析・テナントミックス事業について、これまでの成果

及び費用対効果はどのように捉えているか。

#### 稲武商工会

稲武で不足していること、取り組むべきことを考える時に、移住者、住民、学生、事業者のニーズの把握を行うため、様々な調査を行ってきた。

金山駅で1か月間出店し、実際にお客様に商品を見てもらうことで現状の課題やニーズの把握をした。これらの結果を踏まえ、翌年度からはお客様の声に応える形で商店街の魅力を一つずつ整備し、「どんぐりの里いなぶ」の来訪者をまちの中に誘導し、商店街の活性化につなげていく。

#### 委員

稲武地区は、他の地域に比べて専門家の活用等も含めて地域の活性化に積極的に取り組んでいる。現状の稲武の状況について伺いたい。

#### 稲武商工会

現状の把握をする中で、稲武の事業者は稲武愛が強く、自分達が頑張って次世代のために尽力する方が多くいる。商工会商業部会の役員には、空き店舗の把握と貸し出しの交渉を依頼し動き始めた。観光部会では、商店街の活性化のために朝市の開催、販路拡大のための新たな企画を考えている。

事業者の巡回を重ねる中で、空き家を購入し新たに民泊を始めたい、実家を改装して高級旅館にしたい等、新たな事業展開を始めたいという事業者の把握ができています。

#### 委員

「どこでもいなぶ」のホームページを確認したところ、現在は3店舗のみの出店であり、計画に対して予算規模が大きいと感じる。広告費の費用負担はあるかと思うが、それに見合う効果が十分に得られていない印象がある。店舗名は掲載されているものの、商品が未掲載となっており、これらを改善することで活性化できるのではないかと思う。

#### 事務局

商工会に実態を確認する。

#### 委員長

他に意見がないため、本日の議事を終了する。